

「掩体壕（えんたいごう）」に学ぶ
平和学習
プログラム

戦争遺跡 掩体は語る

SDGs体験プログラム
17 平和と公平をすべての人に

何を訴えているのだろうか どんな歴史があるのだろうか



【学習のながれ】

五感で感じ、自分で自発的に考える

掩体（えんたい）って何のために作られたの？

誰が、どうやって作ったの？
飛行場や掩体が作られて、近所の人たちは幸せだったの？
今の私たちに何を伝えようとしているの？

掩体（えんたい）とは
掩体は飛行機の格納庫で、防衛庁（高知空港史）の資源によると、当時中型15基、小型9機、W型17基あったと記されています。掩体は敵の攻撃から飛行機を守るための構造物で、その中には、鉄筋コンクリート製のもの、木や竹、土でつくられたもの、屋根がなく擁壁のみのもものなどもありました。

物部川エリア（高知県高知市東隣/桂浜より約30分）
（一社）物部川DMO協議会（登録DMO）

TEL:088-802-5050

info@monobegawa.com

受入人数	30名（1人のガイドにつき）
所要時間	約1時間（南国ICより車で約20分）
設定期間	通年
準備物	帽子、水分、日焼け止め、筆記用具、雨具（雨天時）
班分け	7班まで（7つの掩体があるため）

- ・現地ガイドと一緒に、現存する掩体壕をめぐりながら、当時の様子や戦争の傷跡を学びます。
- ・グループごとに、7つの掩体の違いを調べ、発表ができます。

1. 事前学習

平和や戦争について、自分の考えをまとめる。戦時中の生活について調べてみる。

2. 現地学習

ガイド（語りべ）さんの話や、自分で見たことや感じたことを書き留めておく。

3. 事後学習

この時代に自分が生きていけば、どのように感じるか。これからの未来のありかた、平和な世界の実現にむけて考える。

